

＜生息域外保全＞

# 暮らしのなかで植物をまもる

主催：社団法人 日本植物園協会

期日：平成22年12月23日(木・祝)

時間：午後1時30分－4時30分(午後1時開場)

場所：東京大学小柴ホール(本郷キャンパス理学部1号館2階)

入場無料(先着順170席)

## 講演者

大場秀章 (東京大学名誉教授)

倉重祐二 (新潟県立植物園)

## パネリスト

市原みずよ (NPO法人水元ネイチャープロジェクト代表)

小幡 晃 (都立水元公園)

長澤亜紀子 (安城産業文化公園デンパーク)

村松 誠 (前 英国王立園芸協会日本支部専務理事)

## コーディネーター

邑田 仁 (東京大学植物園)



▲ムニンノボタン



◀カザグルマ



◀オオピランジ



◀クマガイソウ

お問い合わせ

社団法人日本植物園協会事務局

〒114-0014 東京都北区田端1-15-11-201

TEL:03-5685-1431 FAX:03-5685-1453

info@syokubutsuen-kyokai.jp

## 第6回植物園シンポジウム <生息域外保全> 暮らしの中で植物をまもる

植物は私たち人間の生活のための資源であり、また生活環境の最も重要な要素です。緑の面積が急速に減少し、多くの植物種が絶滅している今、地球上の多様な植物を保全することにより、私たちの生活を私たちの手で守っていかねばなりません。(社)日本植物園協会では「ふるさとの植物を守ろう」を標語として様々な保全活動を行なって来ました。そのひとつが「植物園シンポジウム」です。平成18年に東京で行なった第1回「ふるさとの植物を守ろう」以後、第2回「種多様性保全と植物園」を名古屋で、第3回「地球温暖化と植物園」を京都で、第4回「北の台地の植物をまもる」を札幌で、第5回「青葉山の森を22世紀に伝える」を仙台で開催してきました。このたびの第6回は、COP10で再認識された里山の維持による生態系の保全から一歩進んで、植物園などを利用して植物の本来の生活域の外で植物を守る「生息域外保全」について考えます。

日本人は自然にある生き物、特に植物の多様性について深い関心を持っており、暮らしの中で様々な植物を護り育ててきました。その素晴らしさを見直しながら、どのような注意をすれば身の回りで正しい生息域外保全が進められるのか、議論したいと思います。

### ■■■交通のご案内■■■

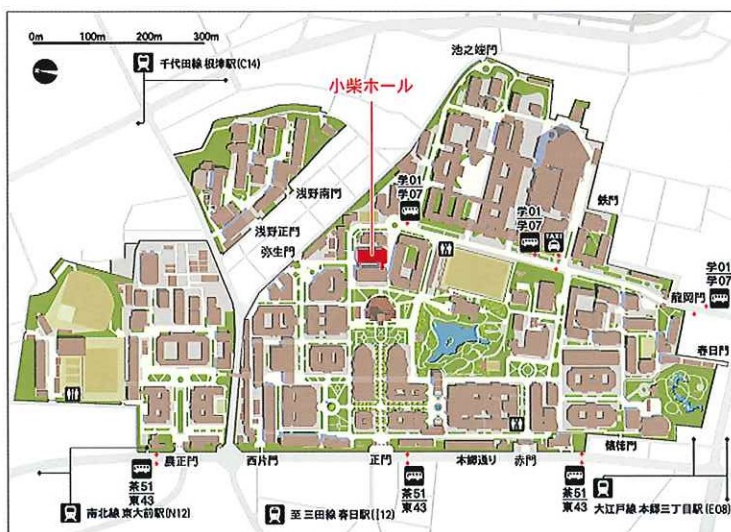
#### 【東大正門まで】

東京メトロ南北線・東大前駅から、	徒歩9分
都営大江戸線・本郷三丁目駅から、	徒歩15分
東京メトロ丸の内線・本郷三丁目駅から、	徒歩15分

#### 【東大弥生門まで】

東京メトロ千代田線・根津駅から、	徒歩10分
------------------	-------

※小柴ホール(理学部1号館)は正門から徒歩5分ほどです。



### 関連展示：「ふるさとの植物を守る～植物園と市民が進める生物多様性の保全～」

主催：社団法人 日本植物園協会

会場：新宿御苑インフォメーションセンター1F

日時：12月21日(火)～12月26日(日)(9:00～16:30。最終日は9:00～15:00)

植物園は、絶滅のおそれのある植物を育て増やす取り組みをはじめ、生物多様性の保全に貢献する様々な活動を行っています。日本植物園協会では、全国の植物園が参加する植物多様性保全拠点園ネットワークを中心として、市民との連携・協働のもとにこうした活動を進めてきました。その結果、日本産絶滅危惧植物種の60%を保有するに至るなど、一定の成果をあげ、現在は、より高い目標に向けて取り組みを進めているところです。

この展示では、このように生物多様性の保全に果たしている植物園の役割を再認識していただくとともに、皆様の力を得て今後の活動が更に進展するよう、ふるさとの植物の現状やこれを将来の世代に引き継ぐために活動する植物園の姿を紹介します。

皆様のご来場をお待ちしています。